

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 9月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	1070800220
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホーム ベルジ渋川たやの家
所在地	群馬県渋川市半田宮西 3075番地 (電 話) 0279-25-3376
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成 19年 8月 29日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13 年 12 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	20 人 常勤 専15人兼3人 非常勤 2 人常勤換算 5.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有① 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	①有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1300	円	

(4)利用者の概要(8月1日)

利用者人数	26 名	7 名	女性	19 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名	
要介護3	8 名	要介護4	10 名	
要介護5	2 名	要支援2	名	
年齢	平均 83.6 歳	最低 70 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	上武呼吸器科内科病院 船岡歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理念を具体的に実現するため「今月の目標」を作成し、朝礼で管理者・職員共に確認しながら日々の支援に取り組んでおり、管理者の利用者に対する真摯で前向きな姿勢が職員にしっかり伝えられている。当ホームが3ユニットである事を利用者の支援に生かして、各ユニットの入居者の何人かが散歩・買い物等を希望した時、職員の連携プレーでそれぞれのユニットの職員が対応しなくても、柔軟に支援することが出来る。入浴に付いては出来るだけ入居者の希望・タイミングを考慮しながら、個別に合わせた対応を行っており、毎日入浴を楽しんで入る方も何人かおられる。汚物の処理方法を特に工夫しているとのことで、ホーム内に臭気は全く感じられなかった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>施錠については入居者の個室の施錠をやめた。ホーム入り口は職員が事務所にいる時間帯を除き施錠している。改善に向けての話し合いはしているが入居者の安全を第一に考えて、解錠はしていない。 食事を楽しむことについては朝食は一緒に摂るが昼・夜は別である。これは職員の休憩時間確保の為の事業所の方針である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は評価の意義・目的を理解し、積極的に評価に取り組む姿勢を持ち、職員にも伝えているが、今回の外部評価は管理者と一部職員で作成している。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議は定期的開催しており、ホーム側から事業所の説明・各種情報の提供・利用者の様子等を報告している。会員からの意見も少しずつ聞かれるようになってきた。会議を契機に民生委員さんから公民館の行事に招待を受けたり、ボランティアの方が見えるようになった。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>毎月ホーム便りを発行して請求書と一緒に送り、ホームの様子をお知らせしている。又家族の来訪時に日頃の暮らし振りを報告しており、来られない方には電話等でお知らせし、家族の意見や希望を聞いて、運営に反映するようにしている。苦情・意見を記載するノートも用意してある。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会に加入しているが積極的に行事には参加していない。推進会議を契機に民生委員から地域行事に招待されるようになり、地域との交流が少しずつ出来てきている。ボランティアの訪問・中学生の体験学習等も行なわれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年の介護保険法の改正を受けて、設立時に作成されていた「家庭的で、人としての尊厳を大切に、安心・安全・安楽の生活」等の理念に、地域の中で生活することを念頭においた「地域社会と共に歩む」の項目を加えた事業所独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は申し送り時や会議等で触れ、日々の生活の場で理念に添った取組に努力している。更に理念をより具体的に実践するために、毎月「今月の目標」を掲げ、朝礼時に復唱し、お互いに確認しながら支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入はしているが積極的に行事等には参加していない。運営推進会議を契機に民生委員の方から行事に招待されて入居者が出席したり、ボランティアの方が見えたり、中学生の体験学習、散歩の時に地元の人と言葉を交わす等、地域との交流が少しずつ出来てきている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義の理解と活用について、管理者や職員は会議等で話しあっているが今回の自己評価は管理者と役職の職員で作成した。	○	施錠について、ホーム入り口は職員が事務所に居る時間帯を除き、施錠している。鍵をかけることによる心理的不安や閉塞感等を与えることを考え、入居者の外出の癖や傾向をつかみ、職員の見守りや連係プレー等で施錠を常態化しない工夫を期待する。食事について、事業所の事情等があると思うが、職員も同じ物を一緒に摂ることの意味を考え、前向きに検討して欲しい。自己評価は管理者等一部の者が行なうのではなく全職員で取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催しており、これまでに7回実施している。内容はホームを理解してもらうための説明、各種情報の提供等であった。最近ではホームに対する理解も得られ、参加者からの意見も少しずつ聞かれるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1回の推進会議開催のために市町村との打ち合わせを少なくとも3回する他、生活保護を受けている方の手続き、敬老会の連絡等と日常的に交流の機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「おたより」を発行し、請求書と一緒に毎月送っている。家族の来訪時に個人用のアルバムを見ていただきながら、日頃の暮らしぶりや健康状態を報告している。来訪されない家族には電話で報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に話の出来る雰囲気作りに留意している。受付にノートを用意し意見や苦情を記載していただくようお願いしている。今後はアンケートにより家族の意見等を把握したいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい事業所を立ち上げる際、経験のある職員の異動があるが、出来るだけ抑えるようにしている。新しい職員に対しては約一週間、日勤の時間帯に新しい職員を含めた4人体制(通常は3人)で支援に当たり、現場で学ぶ機会を作るよう配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の関係グループの施設に介護研修センターがあり、職員はセンター主催の研修会には積極的に参加し、会議等で報告をしている。外部の研修には主に管理者が参加しているが、今後は職員の参加の機会を増やしたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入して、積極的に研修会に参加し情報交換等を行い、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。又他グループと電話による話し合いや情報交換も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を希望する方に対してまず本人と家族に会って、ホームの説明をし、見学をしていただいている。管理者・職員は家族等から出来るだけ多くの情報を得て、支援にあたるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護する対象として捉えるのではなく、人生の先輩として接しており、日常生活において教えられ、励まされ、助けられる事も多く、共に学び・支えあう関係が出来ている。利用者から民謡を教わったり、料理の味付けの指導を受ける場面が度々見られる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と向き合い、話を聞き、何を望んでいるかを把握している。意思疎通の困難な方には日頃の言動や家族の情報により対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向を基に、計画作成担当者を中心にして全職員でカンファレンス・モニタリング(介護の視点に記入)を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護の見直しは6ヶ月毎に行なっており、状態の変化に応じて随時見直しをしている。モニタリングは毎月行なっている。	○	モニタリングを毎月行なってはいるが、状態に変化が見られなくても新鮮な目で本人・家族の意向・状況を確認しながら、出来れば3ヶ月毎の見直しを検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わってのかかりつけ医への付き添い、買い物の同行等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家族や本人の希望を尊重しており、現在かかりつけ医の決まっている方は8名で、家族に代わり主に職員が送迎し、様子を家族に報告している。協力医療機関の主治医の往診が週1回あり、状態確認をしていただいております、状態変化の見られる時には家族に随時電話で相談をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化に対してのホームの指針を家族に話しており、看取りも経験している。事業者としての対応について管理者や一部職員(看護師等)は認識しているが、全ての職員は事業所の方針を共有していない。	○	終末期・重度化についての対応の方針を、直接支援に当たる全ての職員が共有していないので、話し合いの機会を作って欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を守り、さりげない言葉かけや対応をしている。利用者の居室にトイレがあるためプライバシーを損ねる事も無く、気軽に着替えが出来る。個人情報を利用する場合は本人・家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、その日の天候、一人ひとりの体調、希望等に添って買い物や散歩等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の機能低下のため出来る事は少なくなっているが、テーブル拭きなどを職員と一緒にしており、メニューの一部に入居者の希望を取り入れることもある。事業所の方針で職員の休憩時間を確保するために、昼食・夕食は、見守り・介助する人を除き、他の職員は別室で食事をしている。	○	介護する、される関係でなく、共に生活している事を実感するために、食事は同じ食卓で同じ物を一緒に食べる事の大切さを話し合い、管理者は代表者等の会議で検討する機会を作って欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には最低2日に1回となっているが、希望によって毎日入浴している方もいる。入浴を拒む方には時間や対応する職員を替えるなどして柔軟に支援している。夕食後入浴を希望する方が出れば検討することも考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ・掃除(モップかけ、手すり拭きなど)を役割意識を持って、楽しみながら出来るような場面を作っている。常に「ありがとう」の言葉を添え、感謝の気持ちを表している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の状況・希望に応じて散歩・ドライブ・買い物など、日常的に外出する機会を作っている。ホームの前にコンビニがあるので、職員同行で時々買い物に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事務所に職員がいる時は施錠しないようにはしているが、多くの時間帯、事故防止のため玄関やユニットの出入りに鍵をかけている。	○	鍵をかけることの弊害は理解しているが、利用者の安全を第一に考えて施錠している。鍵をかけない暮らしの大切さを再考して、入居者の外出の癖をつかみ、見守りや職員の連係プレイ等により、鍵をかけない時間を増やしていく努力を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回は消火訓練や避難訓練をしているが、事業所だけの訓練である。地域の協力体制は出来ていない。	○	事業所の建物が3階建てである事を考えると、災害時の対応はホームだけでは困難と思われるので、自治会や推進会議で協力を呼びかけたり、地元の消防団とも連携をとって、災害時の協力体制作りを検討して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、記録しており職員は情報を共有している。グループの関係機関である(株)シー・アンド・エスより食材を購入しており、同社には当ホームを担当する管理栄養士がいて、入居者の状況を考慮しながら献立を作り、摂取栄養についても把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブル・椅子の他ゆっくりと寛ぐための畳のコーナーがあり、テレビや家庭的な調度品のほか神棚等も設置されて家庭的で、居心地良く過ごすための工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンス・テレビ・家族の写真・入居者の作品・馴染みの物等が持ち込まれており、安心して過ごせる環境作りの配慮がされている。		